

2018年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告

韓国社会福祉学会春季学術大会での素晴らしい経験

松村 智史

首都大学東京大学院

2018年4月20日（金）・21日（土）に韓国シンハン大学で開催されました、韓国社会福祉学会春季学術大会で自由研究発表をする貴重な機会をいただき、参加してきました。

海外での学会報告は初めての経験で多少不安もありましたが、会場に着くと、韓国社会福祉学会の方々ที่温かく迎え入れてくださり、また、歓迎のお言葉もいただき、一定の緊張感を持ちつつも、とても和やかな雰囲気です発表を迎えることができました。

報告テーマは、「日韓における子ども・若者支援政策の現代的展開と示唆についての一考察」でした。口頭発表では、パワーポイントを用いつつ、共同報告者の朴さんの韓国語通訳の力も借り、プレゼンを行いました。この日のための発表準備として、国内外の様々な先行研究にあたり、朴さんと何度もディスカッションを行い、表現方法のブラッシュアップを重ねてきました。

私たちの報告の後、事前に提出した発表要旨と原稿を討論者の方が丁寧に読み込んできてくださり、フロアを巻き込みつつ、活発な議論が展開されました。

内容としては、少子化や若年層の厳しい雇用や貧困などの類似点を持ちつつも、社会背景や制度に差異もある日本と韓国では、その差異も細かく踏まえた上で、より精緻に考察を行った方が、さらに深い考察ができるのではないか、などの有益なコメントをいただきました。

今回、学会に参加し、議論を通して、他にも多くの新たな知見や、貴重な気づきを得ることができました。これらは、実際に報告や議論をしたからこそ、得ることができたものだと感じます。

また、全体を振り返ると、海外での学会報告に向けた準備の仕方やプレゼンのコツ、海外の学会の雰囲気などもわかりました。また、国際的な人脈やネットワークを得ることもできました。さらに、今回の経験を生かし、今後、一層研究活動や国内外の学会報告に挑戦していきたいと思うようになりました。本当に素晴らしい経験となりました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださいましたことに、深く感謝申し上げます。